

2021 年度 学校推薦型選抜試験 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
29	29

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力（リーガル・マインド）を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

- ① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
- ② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
- ③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

今回の小論文問題の出題の意図は、本学科のアドミッション・ポリシーのうち、① 社会の動きに広く関心を持っている人物、② 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物であるかどうかを判断することを目的としています。

この小論文問題では、まず問題文の読解と併せて、現在の新型コロナウイルス感染に関連する政策の展開について問うことにより、社会の動きや法的な問題に対してどの程度の知識・関心を持っているかを明らかにしてもらいます。その上で、海外の施策との比較やわが国の憲法上の規定からはさまざまな制約が想定されることを踏まえつつ、感染拡大防止のためにわが国が取り得る施策について、自らの考えを示すことを通じて、物事を柔軟かつ論理的に考え、それを自らの言葉で的確に表現し、展開する能力があるかを問うものです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
49	41

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

今回の小論文の問題は、次の点を評価することを意図している。まず、グローバル化のメリット、デメリットを論じさせることで、アドミッション・ポリシーの「1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心」をもっているかどうかを評価することである。次に、自分の考えを述べさせることで、アドミッション・ポリシーの「2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができる」かどうかを評価することである。さらに第三に、時事的な問題について小論文を書かせることで、アドミッション・ポリシーの「5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力」を評価することである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

アドミッション・ポリシーの1にもあるように、今日、わたしたちの地域社会は国際社会とも密接に関連している。ぜひ、日頃から幅広い関心を持って新聞記事やニュースを見てほしい。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
48	39

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

本小論文の出題の意図は、経済学科のアドミッション・ポリシーの1及び3に関連し、現在我々の身の回りで見起きている社会問題がどのような形で経済的影響を生み出しているのか、具体的に考え、かつ、課題を提示し、解決に向けた提案・考えを論理的に主張できるかを確かめる意図がある。また、問いを通して、アドミッション・ポリシー2、4に関連して、経済学科で学びたいことを自覚し、関連する幅広い分野に関心を有しているかを確認したい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

新聞・メディア等で取り上げられる情報に関心を払いつつ、自身のこれまでの知識を活かし、社会的な事象を捉え直すこと、そして、社会的な事象が経済にどう影響を及ぼしているのか論理的に説明ができるか、また、課題解決に向けた提案を、自らの言葉で整理し、表現することがポイントとなる。①については、総合産業としての観光産業を具体的に捉えることができているか、世界・日本の経済社会情勢を踏まえ、どのような形で経済的な打撃を与えているのかを幅広い観点から捉えること、②では①の観点から具体的な取組等について自らの考えを示すことができるのかを評価のポイントとしたい。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 地域環境政策学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
39	39

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の 1～4 について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、受検生が経済学部地域環境政策学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることである。

まず問題（1）で、教科書にも載っているような有名な地球環境問題について知っていることを、具体例を挙げて記述させる。これにより、沖縄や世界の経済や環境に対する関心があるかの程度あるか（上記 AP①、③）を判断する。

さらに問題（2）で、地球環境問題を解決するために必要な個人レベルでの方策を述べさせ、基礎的な知識があるか（AP①）、知識が乏しくとも自らの考えを展開していく能力があるか（AP④）を測る。また（2）の回答を、自身の経験等をふまえて記述している場合は、地域の経済や地元の環境に関心があるか（AP②）、フィールドに出て積極的に活動することができるのかを見る（AP③、④）。

最後に、小論文全体において、質問の意味を把握し的確に答える能力があるか、自らの主張を論理的に展開する能力があるか、そして熱意があるかをみる（AP④）。これらは、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に受検生が合致しているかを判断するものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

今回の問題では、問題（１）と（２）をバランス良く記述することが重要であった。問題（１）について数行の記述で、あとはすべて問題（２）に関する記述等の場合、得点は低い傾向にある。また考えを展開する場合も、具体的事例に基づいて論述されているものについては、高く評価される。自身の思いつきや空想のような考えを展開した場合、論理的でないと判断される。

なお、決められた原稿用紙の使い方から逸脱しているもの、全体の文字数の不足、誤字が多い場合については、減点となった。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 企業システム学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
58	49

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の 3 分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の 5 項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

企業システム学科では学生に、日ごろより、自身の地域がかかえる身近な課題や社会問題（ビジネス・起業問題含む）に関心をもち、主体的に考えてほしいと思っている。今年度の学校推薦型選抜試験では、受検生にとって身近な地域問題・社会問題をひとつ提示し、それについて考察してもらう。問題に対して、それを理解し、深く考え、自身の見解をまとめ、それを表現する力をみていきたい。理解し、考え、まとめ、表現する過程にあっては、高等学校 2 年生課程までに修得した知識（たとえば「政治・経済」「現代社会」「ビジネス経済」などの科目で修得した知識）をうまく活用できているかどうかをみていきたい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(タイプⅠ・タイプⅡ)

Ⅰ. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
49	46

※ タイプⅠ、タイプⅡの総計

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。

また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

産業情報学科では、自ら進んで深く学ぼうと努めている学生を求めています。

設問では、情報科学や産業・経済に興味があり、経済活動や日常生活と情報技術の深い結びつきを考え、地域社会において果たすべき役割について考えているのかを測る内容となっています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(スポーツ推薦)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
1	1

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

小論文試験は、以下の出題の意図に基づいている。

- ① 地域社会と経済について関心を持ち、基本的な知識を有しているか。
- ② 出題された設問に対して、論理を組み立てる思考力、自分の意見の論拠を示して明瞭に表現できるか。
- ③ 大学入学後に学ぶ知識を、自らのスポーツ活動や社会的課題解決に活かそうとする意欲を有しているか。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、かつ学ぶ意欲のある人物を求めています。今回の小論文試験では、出題の意図①～③に加えて、論理展開に無理はないか、語句の用法に誤りはないか、指定された文字数でまとめているかを評価しました。

日頃から新聞などを読む習慣を身につけ、国際社会、日常生活、情報技術等の課題に加えて、新たな取り組みと活用について関心を持つようにして下さい。また、自分はどう考えるか、できることは他にもあるのでは、他にも活用できるのでは、といった視点を持つことも大切です。さらに、小論文試験対策としては、時間的な制約と文字数の指定を踏まえた、書く練習をすることもお勧めします。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
33	33

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、言語学・文学を中心とした、日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーション、という3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は哲学者の随筆から出題しました。【問1】は要約問題、【問2】は意見文問題となっています。いずれも、アドミッション・ポリシーの 3 にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を身につけているかどうかを評価するための問題となっています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

【問1】の要約問題については、①「要約」がどのようなものを理解しているか、②課題文の要点を全て含んでいるか、③②を整理する際の論理の流れが適切であるかどうか、④既定の文字数に達しているか、という4点を評価しています。

【問2】の意見文問題については、①作者の問いかけの意味を理解しているかどうか、②自分自身の意見とその論拠が適切に展開されているか、③語彙力が高いかどうか、④既定の文字数に達しているか、という4点で評価しています。【問2】については、「自由な観点」とあるので、作者とは別の視点に立って、自分自身の体験や考えを述べることも可能です。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(タイプⅠ・タイプⅡ)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
31	31

※ タイプⅠ、タイプⅡの総計

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、①チャレンジ精神と意欲に満ちた人物、②英語力の向上に積極的に努力する人物、③英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物、他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築に努力する人物を求めています。本テストにおいては、英語で情報を読み取り、日本語で要約する課題を通して、英語圏の言語や文化に関する興味・関心・知識、一定量の情報を的確に読み取る英語力及び積極性、そして収集した情報を簡潔にまとめる発信力及びコミュニケーションへの意欲を判断します。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(スポーツ推薦)

1. 実施状況

志願者数・合格者数(志願者無し)

志願者数	合格者数
0	0

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人(総合型選抜:英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人)
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、幸福に関する研究について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 社会文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	18

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

3. 出題の意図

今回の小論文は、社会文化学科のアドミッション・ポリシーのうち、2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物かどうか、5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物かどうかを判断することを目的としています。

まず、沖縄社会と海外とのつながりについて問うことで、沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きにどの程度の興味と関心を持っているかを判断します。それを前提として、受検生自身が沖縄社会の多文化性にどのようなスタンスを取るか、今後の大学生活でどのように関わっていきたいかを論じることを通じて、国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組めるかを問うています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
14	14

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミSSION・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- Ⅰ. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分あると認められる人物。
- Ⅱ. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- Ⅲ. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ（他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する）ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、前述の社会福祉専攻のアドミSSION・ポリシーの1.「社会福祉の専門家としての資質がある」および、2.「社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有する」を判断するものである。

今回テーマとした「少子化対策」について、受検生がどの程度関心をもち、自らの意見を整理して論述することができるかを判断するものであった。特に、少子化を女性や当該家庭のみ

の問題と考えず、社会全体で考える視点が備わっているか、このテーマについて論述してもらうことで大学での学びの準備性を測る材料としている。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

（1）評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の4点が評価のポイントとなっている。

- ① 社会問題となっている「少子化対策」に関してどれくらいの知識・関心をもっているか、
- ② このテーマをめぐる世の中のやり取り（報道のあり方、意見等）をどの程度知っているか、
- ③ このテーマやそれをめぐる世の中のやり取りに対して、どういう意見をもっているか、
- ④ 自分の知っていることと意見として持っていることを関連付けて自分の意見として論述する能力があるか。

（2）アドバイス

日頃から、身近な出来事やニュースに対して関心をもち、それに関連する自分の経験を意識的に振り返ったり、当事者としての視点（自分だったらどうするか、自分に何ができるか）で考えたりする、意識して気づき、考えるという作業を習慣にすること。同時に、振り返ったこと、考えたことを自分の言葉で身近な人に説明したり、文章化するなどアウトプットの作業を積極的に行うといいでしょう。

2021 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
29	24

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物。(自分を成長させようという意欲と態度を持つ人)
- 3.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの中でも、特に1.にあるような人間のこころと行動に関心を持ち科学的視点から学ぶ意欲があるかどうかを評価することです。日常の社会の出来事の中で人のこころが大きく関わっていることは何か、そしてそれがなぜ生じているのかを考えることができているかどうかを評価します。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

評価のポイント

- ・考えのもとになっているものは自分だけの思いつきではなく、客観的な資料や公共の情報にもとづいたものかどうか。
 - ・自分の考えを論理的な文章で書き表せているかどうか。
- 以上の点からも評価されます。